

吉田

Yoshida  
Mikio

幹生

自然科学研究科  
機能分子化学専攻 助教

今回は自然科学研究科機能分子化学専攻（後藤研究室）のホープ・吉田幹生先生にインタビューしました。

- ▼1977（昭和52）年生まれ。
- ▼愛知県名古屋出身。
- ▼本学工学部特別契約職員助手を経て2007（平成19）年4月より現職。
- ▼専門は化学工学・粉体工学。



アナウンサー志望。ところが

出身は愛知県名古屋市です。みそカツ大好き！（笑）高校まで名古屋、それから京都の大学の工学部に進んだのですが、工学に興味があったからではなく、ほかの教科に比べて物理や化学が得意だったから、というだけです。それに理系で就職する気はまったくなかったもので、大学入学後も工学には興味を持てないままでした。というのも、スポーツアナウンサーになりたかったんです。ところが卒業研究を行う段階になって、一気に研究にハマりました。正直、文科系の学生を見て、派手でうらやましいと思っていたときもあったんですが、理科系で良

かったと心底感じましたね。そのまま研究に夢中になって、気がついたら博士後期課程にまで進んでいた、というわけです。

びつくりするほど「晴れの国」

縁あって岡山に来たのですが、いやー晴れますね。一年で傘をさした日が数えられるくらい。気候がいいし、街も大きいし、岡山大好きですね。私は戦隊ものというアカレンジャータイプなんで（笑）、目立ちたがりなんです。本学の学生は、マジメで素直なかわりに、食欲さに欠ける面があるように思います。もっと目立とうとしてもよいと思います。

考えている時間が幸せ

実験結果が得られたとき、すぐには説明がつかない場合があります。「なんでこうなるんやりますか？」と、その理由をとことん自分の頭で考える。その時間がとても楽しくて、幸せですね。学生時代に、弁当を配達するアルバイトをしていたんですが、考えるのに夢中になって、三軒回らなければいけないところを一軒忘れた、なんてことがあるくらいです。それから、学会発表間際に、自分の思ったとおりに実験が進まず、追いつめられることがあります。そんなとき、私は「学会パワー」と呼んでいるのですが、突然アイデアが閃くことがあって、その瞬間が

とても快感なんです。こういうのが研究の醍醐味ですね。わからないからこそ、難しいからこそ、面白いんです。

目指すは「粉博士」

私の専門は粉体工学、つまり粉を扱う学問です。勘違いしている人が多いのですが、粉体と液体の流れ方は、一見同じに見えて、じつは性質がかなり異なります。たとえば、液体は量によって流れの速さが変わるのでも、水時計は経過時間がばつと見わからないのですが、砂時計の場合、量に関わらず流れの速さが同じなので、時間の経過がわかりやすいんです。それが砂時計のほうが普及している理由

の一つと考えられます。そして、粉体の流れ方は現在でもわからない部分が多く、根本的なコントロールには至っていません。そのため、最新鋭の工場であっても、粉が管に詰まるといったトラブルが多発しています。そもそも私が研究にハマったのも、液体と粉体の流れ方に、「そんな違いがあるんだ」と衝撃を受けたのがきっかけなんです。だから、ライフワークとして、粉体の流れを自由にコントロールできるようにしたいと考えています。そして、いつかは、粉体のことならなんでも知ってる「粉博士」と呼ばれたいですね。